11　次世代人材育成・文化・スポーツ振興特別委員会における村岡正嗣県議の質疑

2014年3月14日

◆審査事項「グローバル人材の育成について」

Q．村岡正嗣委員

1．「健全で豊かな心の育成」という大きなテーマの中で、道徳教育において、今回の報告以外にどのような工夫をしているのか。

2．資料２について、非行に至る背景、動機は検証しているのか。

3．資料３について、加害児童生徒数が増加しており、気がかりであるが、どのように受け止めているのか。併せて、このような行為をした動機等についての検証をしているのか。

4．資料３の２（２）の非行防止教室の推進で、保健所職員を講師等に活用しているが、薬物乱用防止教室等で医師などから専門的な話をしてもらうことに説得力があると思うがどうか。

A．生徒指導課長

1．市町村が独自の教材を作成して、授業を行うところもある。また、子供にとって分かりやすい資料を活用するなど柔軟に対応している。

3．同じ子が繰り返して行っているケースがある。家庭において愛情不足であったり、家庭内に課題を抱えている場合がある。

県としては、心理の専門家であるスクールカウンセラーによるカウンセリングや、家庭内の課題については福祉等の専門家であるスクールソーシャルワーカーによる支援などを行っている。

4．専門家の確保が困難な状況であることから、非行防止教室では、保健所職員やＮＰＯの職員などに講演をしていただいているのが現状である。

A．少年課長

2．ひったくりなどの街頭犯罪の動機については、「見つかりにくい」、「捕まりにくい」、「簡単に金銭が手に入る」などが挙げられ、安易かつ短絡的に犯行に及んでいるという状況が伺える。背景については、家庭環境などが考えられる。

Q．村岡委員

1．パラリンピックやスポーツで活躍した方、あるいは東日本大震災の際に多くの生命を救うために自らが犠牲になってしまった方等、教材として取り上げる事例はたくさんあるのではないか。幅広く柔軟に考える必要があると思うが見解を伺う。

2．非行については、動機をよく把握することが大切である。未然に防止することが大切だと思うが、教育局の考え方を再確認させていただきたい。

A．生徒指導課長

1．柔軟に対応していくことが重要であると考えている。県でも、西武ライオンズなどのスポーツ選手やサッカー協会に依頼して講師を学校に派遣したり、東日本大震災に関する資料を作成して学校に配布したりしている。引き続き配慮していく。

2．未然防止というのは、正に大切なことである。特に暴力・非行については、前兆的な行為があるので、教員にはちょっとした変化に気づいてもらうために、チェックシートを配布するなど初期段階で適切かつ迅速に対応ができるようにしている。